



# 新医療の創造で世界を牽引する

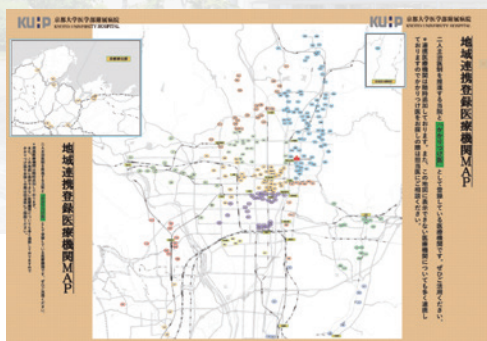
研究と臨床、地域と医療、いまとこれからをつなぎながら

## 研究成果をいち早く臨床へ、高度先進医療を患者さんの元へ

医学部附属病院の手術件数は年間1万件を超え、国立大学病院としてトップクラスを誇ります。高度な手術も多数行っており、中には2022年2月の血液型不適合条件下での生体肺移植のように当院が世界で初めて実施した手術もあります。また、未来の医療を創造することも私たちの使命です。2020年に設立した先端医療研究開発機構では、早期臨床試験に特化した組織(Ki-CONNECT)を設置し、iPS細胞などを用いた新たな医薬品、治療方法を、1日でも早く患者さんに届けるために日々研究、開発に取り組んでいます。



## 地域医療連携の充実



地域における当院の役割も重要です。本院では、各医療機関が有する医療機能を活用し、高度な医療を地域の患者さんに提供することを目的として、地域のかかりつけ医と当院医師による「ふたり主治医制」を積極的に推進しています。また、本取組みに賛同いただける医療機関を当院の「地域連携医療機関」として登録し、希望される医療機関には「地域連携医療機関登録証」を発行しています。

(2023年4月末現在393機関)

## 組織の枠を超えたチーム医療で最適なケアを実現

2022年4月には関西の大学病院で初となる摂食嚥下診療センターを設置し、専門医や認定看護師を中心に複数の職種が一丸となって予防や治療、リハビリテーションにあたっています。また、同時期に脳卒中診療支援センターも設置。当センターでは、治療に留まらず、リハビリテーションや退院後の社会復帰までを一貫して支援するとともに、脳卒中予防、正しい知識の普及啓発といった地域での重要な役割も担っています。



脳卒中診療支援センターのメンバー